

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館 学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

The Diary of Hisakatsu Hijikata (Ⅲ)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2012-01-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 土方, 久功 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15021/00000972

註

〔第13冊〕

- 1) 十六日＝「本島行き」について書かれた4月16日から26日までの日記は、通常の日記の間に分割されて記されている。なお、この4月16日からの本島行きの部分は、「わが青春のとき」（『土方久功著作集』第6巻、以下『著作集』と略す）222～234頁に収載されている。
- 2) 佐久間氏＝『土方久功日記』Ⅱ（以下、『日記』と略す）註215参照。
- 3) 杉浦大工サン＝杉浦佐助。『日記』Ⅱ、註221参照。
- 4) 昌南倶楽部＝『日記』Ⅱ、註216参照。
- 5) ア・バイ＝『日記』Ⅱ、註211参照。
- 6) 南貿＝南洋貿易株式会社。『日記』Ⅱ、註214参照。
- 7) 支庁長＝伏田弥三郎パラオ支庁長。
- 8) 巨石遺跡＝この遺跡に関しては、「伝説遺物より見たるパラオ人」（『パラオの社会と生活』、〈『著作集』第1巻〉）、32・33頁に記されている。
- 9) アンペラ＝『日記』Ⅱ、註219参照。
- 10) タコノ木＝蜻の木。『日記』Ⅱ、註228参照。
- 11) 檳榔樹＝『日記』Ⅱ、註231参照。
- 12) 昔、幾人カノ若者が集ッテ＝この説話は、「太陽探し」と題した一説として、『パラオの神話と伝説』（『著作集』第3巻）110・111頁に収載されている。
- 13) 蝙蝠（オリツキ）ノ絵＝オリツキについては、「過去に於けるパラオ人の宗教と信仰」（『著作集』第2巻）227・228頁に記されている。
- 14) カヤンガルノ西ニガルワンガルト云フ寫ガアル＝この伝承は、「ホレヨル口碑断片」と題され、『パラオの重要断片の地方誌』（『著作集』第1巻）265頁に収載されている。
- 15) 一部改め、「オルメレル アウルル（うつぼかずら）」と題され、詩集『青蜥蜴の夢』に収載されている。
- 16) 一部改め、「マンゴー」と題され、詩集『青蜥蜴の夢』に収載されている。
- 17) 一部改め、「断片」（詩集『青蜥蜴の夢』収載）の一部とする。
- 18) 一部改め、「断片」（詩集『青蜥蜴の夢』収載）の最終部分とする。
- 19) 妙子クン＝柴山妙子。柴山昌生、梅子の四女。昌道、百合子、綾子等の妹。久功の姪。
- 20) アルミツノ洞穴＝この洞穴の絵については、『伝説遺物より見たるパラオ人』（『著作集』第1巻）87頁に記されている。
- 21) 珍ラシク三日モ降ッタ雨ガ＝一部改め、「断片」（詩集『青蜥蜴の夢』収載）の一部とする。
- 22) 静カナ夜＝一部改め、「断片」（詩集『青蜥蜴の夢』収載）の前半部分とする。
- 23) オバックルビルトディランゲル＝久功の隣家の娘。オバックルビルは当時10歳で、ディランゲルは、その従姉妹。散文詩「青蜥蜴の夢」（詩集『青蜥蜴の夢』所収）に、三人でガルミツ部落へ行った時のことが書かれている。オバックルビルは、1990年当時、コロールに住み、足は悪かったものの、健在であり、久功のことをきくことができた。
- 24) 公学校＝『日記』Ⅱ、註218参照。
- 25) 昔々、パラオニ戦争ガ＝この説話は、「敵を走らせた子供達の話」と題され、『パラオの神話と伝説』（『著作集』第3巻）178・179頁に収載されている。
- 26) 下ノ水溜ニ行クト＝この情景は、後、レリーフ作品「ア・ディオン（パラオ洗身池）」（1954年）、水彩画作品「洗身池」（1971年頃）として描かれた。
- 27) 私ハ芋ノ葉ヲトッテ腰ヲ下シテ、スケッチヲ始メル＝この情景は、水彩画作品「タロ芋田圃

- (パラオ)」(1972年頃)になった。
- 28) クレーマー=ドイツの民族学者。ドイツがミクロネシアを植民地としていた時代、1908～1910年頃、包括的な調査を行った。
 - 29) 南洋序=『日記』Ⅱ，註210参照。
 - 30) 今日ハアルミツニ行キ=この日のアルミツ行きの記事は、大幅に書き直され、「青蜥蜴の夢」(詩集『青蜥蜴の夢』所収)と題する散文詩となった。
 - 31) デング=デング熱。一過性の熱性疾患で、東南アジア、インド、中米、南太平洋などに広く分布する。デングウィルスの感染症で、小型の蚊に刺されることにより感染する。潜伏期間は、4日から7日。発症時は悪寒を伴って急に高熱を出す。3日程度で急に37度あたりまで解熱し、1日おいて39度あたりまで上昇し、2日程で再び急に解熱するというM字型の熱型を示すことが多い。
 - 32) 焼物ヲスル婆サン=アラカマイの焼物をするディランラッカ婆さんの話は、「パラオ文様土器片探集記」(『著作集』第3巻)290～292頁に記されている。「探集記」では、村落名を「ガラガマエ」、婆さんの名を「ディラウラック」と表記している。
 - 33) 岩山ノ「牛ノ絵」=この絵については、「伝説遺物より見たるパラオ人」(『著作集』第1巻)87頁に記されている。

[第14冊]

- 34) オーラックリエノ鐘乳壁=この洞穴については、「過去に於けるパラオ人の宗教と信仰」(『著作集』第2巻)213・214頁に記されている。また、「神ノ家」については、「伝説遺物より見たるパラオ人」(『著作集』第1巻)40・41頁に記されている。
- 35) カイバツクル=『日記』Ⅱ，註220参照。
- 36) ガサクサオノ端ヲ廻ッテワーラップシエーカルノ裏ニ出ル=この日の調査については、「パラオ文様土器探集記」(『著作集』第2巻)292頁に記されている。
- 37) ガサクサオヘ=この日のガラクサオでの調査については、前掲「パラオ文様土器片探集記」、292～294頁に記されている。
- 38) 東京カラ来タ考古学ノ助手=八幡一郎。明治35年(1902)、長野県に生まれる。東京帝大卒。東京国立博物館考古課長、東京教育大学教授、上智大学教授を務める。昭和36～44年、日本考古学協会の委員長を務める。
- 39) アルボーヴルノ廢村ニ行ク=この日のアルボーヴルでの調査は、「パラオ石神並に石製遺物報告」(『著作集』第2巻)6・7頁に記されている。ただし、「報告」では、村名を「ガルボーツル」と表記している。
- 40) イケツノ伝承=この「鰐の石」に関する説話は、「パラオの勇者」と題され、『パラオの神話と伝説』(『著作集』第3巻)100・101頁に、および「アルボーツルの勇者」と題され、「パラオ島民の伝説口碑と『教え』」(『著作集』第6巻)452・453頁に収載されている。また、「パラオ石神並に石製遺物報告」(『著作集』第2巻)6・7頁にも記されている。
- 41) ア・クリム(a-Klim)=アイライの前の海上にある小さな石灰岩島にある洞穴。このクリムの洞穴内の遺物については、「過去に於けるパラオ人の宗教と信仰」(『著作集』第2巻)213～215頁に記されている。
- 42) 石ヲ見ニ行ク=アルミツの二つの石神については、「パラオ石神並に石製遺物報告」(『著作集』第2巻)7～10頁に記されている。
- 43) アルミス[△]ノ母子石彫=この母子石彫についての伝承は、「パラオ石神並に石製遺物報告」(『著作集』第2巻)7～9頁に収載されている。

- 44) 四面ニ人面像ノアル石=この四面の面人像については、前掲9・10頁に記されている。
- 45) 昔ガクラオニ一人ノ女ガアッタ=この説話は、鳥釣り伝説の一異伝として「ムデヒー・ベラウ」(『パラオの神話と伝説』(『著作集』第3巻))12・13頁に記載されている。
- 46) 昔、大キナ鼠ガ=この説話は、「パラオ石神並に石製遺物報告」(『著作集』第2巻)4・5頁に記載されている。
- 47) ベボロック=この石については、「パラオ石神並に石製遺物報告」(『パラオの神と信仰』(『著作集』第2巻))4・5頁に記されている。
- 48) カボクド=カボクドの遺跡については、「パラオ石神並に石製遺物報告」(『著作集』第2巻)47～54頁に記されている。但し、「報告」では、村落名は、「ガブクズ」と表記されている。
- 49) アカラップ=アカラップの遺跡については、「パラオ石神並に石製遺物報告」(『著作集』第2巻)53～62頁に記されている。ただし、「報告」では、村落名は、「ア・ガラップ」と表記されている。
- 50) アコール=アコールの遺跡については、後出、11月9日の記とともに、「パラオ石神並に石製遺物報告」(『著作集』第2巻)72～76頁に記されている。ただし、「報告」では、村落名は、「ア・ゴール」と表記されている。
- 51) ア・イムツ[△]ールノ家=当時、アコールは信仰的新結社(モデクゲイ)の本拠地であったが、この家の主イックルケツは新結社の有力者の一人で、石製遺物等を収集していた(「パラオ石神並に石製遺物報告」,『著作集』第2巻,73頁)。
- 52) カ[△]ラカベツタン=ウリマンからカ[△]ラカベツタンに至るガルデルマン、エルクローグル廃村の遺跡調査については、「パラオ石神並に石製遺物報告」(『著作集』第2巻),67～69頁に記されている。
- 53) 昔、カ[△]ラスマオノアケツニ、エラテムウト云フ悪魔=この説話は、「ガラツコオの悪神退治」と題され、『パラオの神話と伝説』(『著作集』第3巻)115頁に記載されている。
- 54) 裏ノアケツラアウロンカラ登ッテ、一廻リシテ来ル=このガブクツ、ウリマンの裏手のア・ケツの調査は、「パラオ石神並に石製遺物報告」(『著作集』第3巻)59～62頁に記されている。
- 55) コデップ=コーデップ・エラ・ギラゴムクール。ア・ゴール、ゲードン部落の第一長老。40歳にならない壮年であったが、パラオのあらゆる古い伝説、神話ないし古習俗等の伝承者としては第一人者であった。当時、信仰的新結社(モデクゲイ)を秩序立て、各種の実行的な成果をあげてきたと言われる(土方久功「パラオに於ける信仰的新結社」(『著作集』第2巻)237頁)。
- 56) アコールニ行ク=アコールの遺跡については、前出、10月27日の記とともに、「パラオ石神並に石製遺物報告」(『著作集』第2巻)72～76頁に記されている。
- 57) 天地ノ始メ=この神話は、創成神話の別伝として、『パラオの神話と伝説』(『著作集』第3巻)4～6頁に記載されている。
- 58) 鳥釣り伝説=この伝説は、「ムデヒー・ベラウ」伝説の一つの異伝として、『パラオの神話と伝説』(『著作集』第3巻)13・14頁に記載されている。
- 59) カ[△]クラオニ行ク=ガクラオの遺跡調査については、17日の記とともに、書き改められ、「パラオ石神並に石製遺物報告」(『著作集』第2巻)69～73頁に記載されている。ただし、「報告」では、村落名を「ンケクラオ」と表記している。
- 60) ケ[△]ルプケ[△]イ=ガクラオのゲルプゲイについては、「伝説遺物より見たるパラオ人」(『著作集』第1巻)66～68頁に記されている。
- 61) ア・イムツ[△]ール所有=このア・イムズール所有の2点については、「パラオ石神並に石製遺物報告」(『著作集』第2巻)76頁に記されている。
- 62) コンレイニ着=コンレイの遺跡調査については、「パラオ石神並に石製遺物報告」(『著作集』

- 第2巻) 87～96頁に記されている。ただし、「報告」では、村落名を「コ[○]ルレイ」と表記している。
- 63) 図ノ様ナ土台=このブックルについては、「伝説遺物より見たるパラオ人」(『著作集』第1巻) 65・66頁に記されている。
- 64) Bañh r ūrchāū = バツ・ル・ウルカウの遺跡については、「パラオ石神並に石製遺物報告」(『著作集』第2巻) 83～86頁に記されている。
- 65) 此ノ近クニ小サナ石ノ[○]オンルシムルガアルガ=この説話は、「パラオ石神並に石製遺物報告」(『著作集』第2巻) 81・82頁に収載されている。
- 66) マカ[△]ンラオツ[△]・ル・バツ[△]=ガルコロンにあるマカ[△]ンラオツ[△]・ル・バツ[△]村の遺跡については、「パラオ石神並に石製遺物報告」(『著作集』第2巻) 77～79頁に記されている。
- 67) シースニ就テノ話=この説話は、「天の土産」と題され、『パラオの神話と伝説』(『著作集』第3巻) 124・125頁に収載されている。
- 68) 五尺余モアル立石=ア・ンリール村落の石神については、「パラオ石神並に石製遺物報告」(『著作集』第2巻) 82・83頁に記されている。
- 69) カ[△]ラスマオニ四時半着=ガラスマオ(ガルツマオ)での石神調査は、「パラオ石神並に石製遺物報告」(『著作集』第2巻) 33～47頁に記されている。
- 70) カ[△]クラオニ一匹ノ鼠ガ居タ=メタンガラ・オコス系の伝説の一つとして、「伝説より見たるパラオ人」(『著作集』第1巻) 14～16頁および「ア・ウヘル・ンケクラオの渡来」(『著作集』第3巻)の一説話として73～75頁に収載されている。
- 71) オキ[△]ワルノ Ngaraos ト云フ岩山=この説話は、「悪神(メレッキ)像の由来」と題され、『パラオの神話と伝説』(『著作集』第3巻) 140～142頁に収載されている。
- 72) コンレイニ Irachoūloū ト云フ男ガアッタ=この説話は、「パラオ石神並びに石製遺物報告」(『著作集』第2巻) 90・91頁に収載されている。
- 73) オルワンカ[△]ルカラ乗ッテ来タカヌー=これ以下に記されているウリマン村落のなかのドソゴン廢村にある遺跡については、「パラオ石神並に石製遺物報告」(『著作集』第2巻) 64～66頁に記されている。
- 74) ihelsmiyaka = これらア・バイに描かれた模様については、「伝説遺物より見たるパラオ人」(『著作集』第1巻) 55～57頁に記されている。
- 75) 大昔ハア・カラップガ=この説話は、「パラオの重要断片的地方誌」(『著作集』第1巻) 276頁に収載されている。
- 76) 大ア・カラップニ村ノ者同志ノ=この口碑は、「伝説遺物より見たるパラオ人」(『著作集』第1巻) 8・9頁に、また「女竹(リルツ)の子」と題され、『パラオの神話と伝説』(『著作集』第3巻) 122頁に収載されている。
- 77) ア・カラップノ Ngarald Bañh ト呼バレル石=この石については、「パラオ石神並に石製遺物報告」(『著作集』第2巻) 56頁に記されている。

[第15冊]

- 78) 昔、イミリーキノカ[△]ルコロンノ女ガ=この説話は、「オラカル神話」と題され、『パラオの神話と伝説』(『著作集』第3巻) 48～50頁に収載されている。
- 79) 昔 Ngaspan ニハ日本人ガ=この伝承は、「パラオの重要断片的地方誌」(『著作集』第1巻)のガツパンの項(271・272頁)に収載されている。
- 80) theleb (deleb) = 「パラオの神々」(『著作集』第2巻) 158・159頁に12, 3歳の子供からきいた怖い神様として記されている。

- 81) 或時、陸ノ蟹ト鼠ト＝「蟹と鼠」と題され、『パラオの神話と伝説』（『著作集』第3巻）186頁に収載されている。
- 82) Sochōl ト云フ子供ガ＝この説話は、「大蛇退治」と題され、『パラオの神話と伝説』（『著作集』第3巻）187・188頁に収載されている。
- 83) 昔、Chonlei ノ iyūngl ニ＝この説話は、「人魚の話」と題され、『パラオの神話と伝説』（『著作集』第3巻）189頁に収載されている。
- 84) 猫ノハジメ＝この説話は、「猫のはじめ」と題され、『パラオの神話と伝説』（『著作集』第3巻）145・146頁に収載されている。
- 85) Ngelwosocho ノ家ハ＝この説話は、「テーデーブスグツ」と題され、『パラオの神話と伝説』（『著作集』第3巻）138・139頁に収載されている。
- 86) Olkeok ハ Mirath ノ子デアルガ＝この伝承は、「パラオ石神並に石製遺物報告」（『著作集』第2巻）111頁に収載されている。
- 87) 昔、Ngalkmowan ト云フ大男（神）ガ＝この説話は、「ガラガサンの大墓」と題され、『パラオの神話と伝説』（『著作集』第3巻）126頁に収載されている。
- 88) 昔々カ[△]ラルドガ強クテ＝この説話は、「ホダル・メレクの石」と題され、『パラオの神話と伝説』（『著作集』第3巻）60・61頁に収載されている。
- 89) 始メニ天ノ神＝この説話は、「創成神話」のひとつとして、『パラオの神話と伝説』（『著作集』第3巻）3・4頁および「伝説的口碑的分類」のなかの〔クワップの子〕（『著作集』第1巻）3・4頁に収載されている。
- 90) 或時、Chofhalmerech ト＝この説話は、ホダルメレク石の口碑として、『パラオの神話と伝説』（『著作集』第3巻）61～63頁に収載されている。
- 91) Alcholon ノ Ulūshian ト云フ家ニ＝この説話は、ア・ウヘルに就いての一つの異伝として、『パラオの神話と伝説』（『著作集』第3巻）64・65頁に収載されている。
- 92) Ongiwal ノ話デアル＝この説話は、「親不孝のテバイ」と題され、『パラオの神話と伝説』（『著作集』第3巻）154～157頁および「パラオ島民の伝説口碑と『教え』（『著作集』第6巻）450頁に収載されている。
- 93) 昔、Ngūlwīkl ニ＝この説話は、「カプイ（きんま）のはじめ」と題され、『パラオの神話と伝説』（『著作集』第3巻）143・144頁に収載されている。
- 94) 昔、Ngalonchol ニ Och-ela Chaliṭh ガ居タ＝この説話は、オルワンガル伝説の一つとして、『パラオの神話と伝説』（『著作集』第3巻）80～82頁に収載されている。
- 95) Olwanngal ノモノガ昔＝この説話は「オルワンガルの沈没」（『著作集』第3巻）のオルワンガル伝説の異伝の一つとして82・83頁に収載されている。
- 96) Alcholon ノ Tochochōcho ト云フ家ニ＝この説話は、オルギースの話の一説として、『パラオの神話と伝説』（『著作集』第3巻）17・18頁に収載されている。
- 97) ク[△]ルボサンノア・イカ[△]スト云家ニ＝この説話は、「ア・イガスの二人娘」と題され、『パラオの神話と伝説』（『著作集』第3巻）158頁に収載されている。
- 98) カ[△]スールニカ[△]ツ[△]ールト云フ女ガ＝この説話は、「ガルスールの女酋長」と題され、『パラオの神話と伝説』（『著作集』第3巻）127・128頁に収載されている。
- 99) オギワルニ行ク＝オギワルでの調査については、「パラオ石神並に石製遺物調査報告」（『著作集』第2巻）103～108頁に記されている。
- 100) 昔、オキ[△]ワルハ弱クテ＝この説話は、「ウギワルの勇者」と題され、『パラオの神話と伝説』（『著作集』第3巻）102～106頁に収載されている。
- 101) カイシャルニ入ッタ＝カイシャルの石神、石製遺物については、「パラオ石神並に石製遺物報

- 告」(『著作集』第2巻)116～119頁に記されている。なお、「報告」では、村落名を「ンカイサル」と表記している。
- 102) ベリリュノカ[△]ロコルトカ[△]シヤストノ間ニはこの説話は、イメヨンのゲルトウロンの話として、『パラオの神話と伝説』(『著作集』第3巻)36・37頁に収載されている。
- 103) Rois merech 全部ヲ見ニ行クはこの日の調査については、「伝説遺物より見たるパラオ人」(『著作集』第1巻)76・77頁に記されている。
- 104) Mangan-achūi ノ石はこの人面石については、『パラオ石神並に遺物報告』(『著作集』第2巻)114・115頁に記されている。
- 105) Ngūlreyong ノ Bsoyocho ノ石はこの人面石については、『パラオ石神並に遺物報告』(『著作集』第2巻)113頁に記されている。
- 106) 今日ハ皆テ Ngaldok ノ湖ニ行クはこの日のガルドック湖行きについては、書き改められ、散文詩「ガルドック湖」(詩集『青蜥蜴ノ夢』〈『著作集』第6巻〉)となった。
- 107) Chūap 女神ハ Naliyap デはこの説話は、「ミラツ神話」と題され、『パラオの神話と伝説』(『著作集』第3巻)38～42頁に収載されている。
- 108) ウルリヤンノ廢村ヲ廻ッテ見ルはこの日の土器片採集については、「パラオ文様土器片採集記」(『著作集』第2巻)296～299頁に記されている。
- 109) Ngarad ノ アケツノ麓ニ行ッテ、又、土器片ヲ拾フはこの日のガラルドのアケツの麓、および公学校裏での土器片採集については、「パラオ文様土器片採集記」(『著作集』第2巻)298～302頁に記されている。
- 110) カ[△]ルミツ[△]ノアケツニ行クはこのガヤンスと呼ばれるア・ケツについては、「伝説遺物より見たるパラオ人」(『著作集』第1巻)68・69頁に記されている。
- 111) アラカベサンはこの日のアラカベサンの石神、石製遺物調査については、「パラオ石神並に石製遺物報告」(『著作集』第2巻)11～13頁に、アケツについては、「伝説遺物より見たるパラオ人」(『著作集』第1巻)74～76頁に記されている。
- 112) Arabakeg[△]ノ前住地タルはこの伝承は、「パラオの重要断片的地方誌」(『著作集』第1巻)264・265頁に収載されている。
- 113) Angeaol ニ Orngis ト云フ者アリはこの説話は、「ムデヒー・ベラウ」の一説として、『パラオの神話と伝説』(『著作集』第3巻)19～21頁に収載されている。
- 114) 杉浦君ト アラバケツニ出カケル＝アラバケツ石神については、「パラオ石神並に石製遺物報告」(『著作集』第2巻)10・11頁に記されている。
- 115) Ochūel ngbald, カ[△]シヤスニはこの説話は、「家神と村神の戦い」と題され、『パラオの神話と伝説』(『著作集』第3巻)149頁に収載されている。
- 116) Bilmeyai ハ天ニ在ッテ＝ビルメイイ神については、『パラオの神話と伝説』(『著作集』第3巻)6頁に記されている。
- 117) a・reng ハ＝ア・レンについては、「過去に於けるパラオ人の宗教と信仰」(『著作集』第2巻)156～158頁に記されている。
- 118) アイライノ Ngathi-ūl＝この説話は、「山彦魚」の一説として『パラオの神話と伝説』(『著作集』第3巻)147頁に収載されている。
- 119) 佑サン＝中沢佑(たすく)。久功の妹・英子の夫。『土方久功日記』I 註60参照。
- 120) オギワルニ行ッテ エラマスプトカラ野鶏ヲトドケテ来ル＝エラマスプトをめぐる話は、「鶏」(『青蜥蜴ノ夢』、〈『著作集』第6巻所収〉)73～75頁に記されている。なお、「鶏」では、名前を「ギラマスブツ爺さん」と表記している。
- 121) Hūchūl a brūū ハ＝この伝承は、「パラオの重要断片的地方誌」(『著作集』第1巻)「ベリリュ

一」の項、252頁に収載されている。

- 122) Ochüel ngbard 神ガはこの伝承は、「パラオの重要断片的地方誌」（『著作集』第1巻）「ペリリュエ」の項、252頁に収載されている。
- 123) airai ノ Mdekibelaū ガはこの伝承は、ムデヒー・ベラウの寓話じみた断片的な話のひとつとして、「パラオの神話と伝説」（『著作集』第3巻）21頁に収載されている。
- 124) カ^ルケョックルカラフクラブルーニ行ク途中＝この説話は、「ウギワルの勇者」の一部として『パラオの神話と伝説』（『著作集』第3巻）106頁に収載されている。

〔第16冊〕

- 125) 昔 Elson ト云フ所ニ Bsoyoch ガ居タ＝この説話は、「オラカル神話」の一説として、『パラオの神話と伝説』（『著作集』第3巻）51～53頁に収載されている。
- 126) Ngaliyap ニ Urkütschool ト云フ女ガ＝この説話は、「ミラヅ神話」の一説として、『パラオの神話と伝説』（『著作集』第3巻）45頁に収載されている。
- 127) Philachamaltäl ト云フ婆ガアッテ＝この説話は、「やどかりの歌」と題され、『パラオの神話と伝説』（『著作集』第3巻）190・191頁に収載されている。
- 128) Ngüsal ニ Tücholmel, Eetboihongel ト云フ兄弟＝この説話は、「或る兄弟の話」と題され、『パラオの神話と伝説』（『著作集』第3巻）159・160頁に収載されている。
- 129) Ngeaol ニ Etümai ト云フ婆サンガ居タ＝この説話は、「ムデヒー・ベラウ」の一説として、『パラオの神話と伝説』（『著作集』第3巻）18・19頁に収載されている。
- 130) Aūron ニ Oshilech ト云フ男ガアッタ＝この説話は、ア・ウロンのオシレックの小さな話として、『パラオの神話と伝説』（『著作集』第3巻）29頁に収載されている。
- 131) 昔ハ Malekiok ノ者ハ Ngalmithiū ニ居タ＝この説話は、「メレキョクのサハルリヨンの伝説」の一部として、『パラオの神話と伝説』（『著作集』第3巻）91・92頁に収載されている。
- 132) Ngayangal ノ Ngaldochol ハ Periliū ニ行ッテ＝この説話は、「ムヅヒー・ベラウ」のひとつの異伝として、『パラオの神話と伝説』（『著作集』第3巻）10頁に収載されている。
- 133) Philachamaltäl ハ二人ノ子ヲ追出シタ前ニモ＝この説話は、「天の村の出来事」と題され、『パラオの神話と伝説』（『著作集』第3巻）192～198頁に収載されている。
- 134) ケセケス＝モデクゲイの賛歌。元来、物語歌、歴史歌の一調で、多く子守歌として歌われていた。モデクゲイの教義が歌われるが、地方によって神々が異なり、ケセケスの数は多い（土方久功「パラオに於ける信仰的新結社に就いて」〈『著作集』第2巻）241・242頁）。
- 135) Kayangal ニ Mälüa Fhül Kayangal ト云フ神アリ＝この説話は、「ンヘヤンガルの悪神退治」と題され、『パラオの神話と伝説』（『著作集』第3巻）112～114頁に収載されている。
- 136) 之ハヤップノモノダッタソウデ＝この木製の神器については、「過去におけるパラオ人の宗教と信仰」（『著作集』第2巻）185・186頁に記されている。
- 137) ihmms ノ旧跡ヲ案内スル＝カヤンガル島のガルディンムス（南村）の石神、石製遺物については、「パラオ石神並に石製遺物報告」（『著作集』第2巻）96～99頁に記されている。
- 138) 今日ハ日曜デ彼等ノ祈祷日＝このカヤンガル島南村のモデクゲイの儀式については、「パラオに於ける信仰的新結社に就いて」（『著作集』第2巻）251～254頁に記されている。
- 139) Malüathül Kayangal ノ一説＝この説話は、「ンヘヤンガルの悪神退治」の一説として、『パラオの神話と伝説』（『著作集』第3巻）113頁に収載されている。
- 140) ereol（突槍、護身槍）＝この2本の槍については、「過去に於けるパラオ人の宗教と信仰」（『著作集』第2巻）229頁に記されている。
- 141) オルワンカ^ル沈没伝説補＝この説話は、「オルワンガルの沈没」伝説の一説として、『パラオ

- の神話と伝説』（『著作集』第3巻）78・79頁に記載されている。
- 142) Palao ニ始メテ外国船ノ来リシ時＝この説話は、「精霊の贈物」と題され、『パラオの神話と伝説』（『著作集』第3巻）161・162頁に記載されている。
- 143) 北ノ村跡ヲ案内シテ貫フ＝カヤンガル島のガルディーロン（北村）の石製遺物の一部については、『パラオ石神並に石製遺物報告』（『著作集』第2巻）99～103頁に記されている。
- 144) 北ノ村ヲ一廻リシテクル＝カヤンガル島の土器調査については、『パラオ文様土器片採集記』（『著作集』第2巻）302～308頁に記されている。
- 145) 其ノ Ngardochol ハ Karakael Ngardochol ト云ッタ＝この説話は、ムデヒー・ベラウの神話の一説として、『パラオの神話と伝説』（『著作集』第3巻）10・11頁に記載されている。
- 146) カヤンカ[△]ルニハ又々有文土器片ガ少シデア[△]ルガ＝カヤンガル島の文様土器調査は、『パラオ文様片採集記』（『著作集』第2巻）302～308頁に記されている。
- 147) Neaol ノ Ngattlkoū 家ニ Morokoyūklseil ＝この説話は、オルギースの話の一説として、『パラオの神話と伝承』（『著作集』第3巻）16・17頁に記載されている。
- 148) 先ツ内地デ人ガ愈々息ヲ引トル時＝葬儀については、「パラオの重要断片的地方誌」（『著作集』第1巻）中の「コムルディール（葬儀）断片」として、299～301頁に記されている。
- 149) Ngaraha bettan ノ Ngalmasahaū ト云フ者＝ガラルツのンケクラオにある廃村ガラベタンにある石製遺物に関する記事は、「パラオ石神並に石製遺物報告」（『著作集』第2巻）69～71頁に記されている。
- 150) Ngatmel ノ Erabaniyao ノ娘, Tiptipchmiyūch ＝この説話は、ティプティプミーユックの一説として、『パラオの神話と伝説』（『著作集』第3巻）31～33頁に記載されている。
- 151) 現在ノ Ngar keai ハ＝このガルケヤイの由来については、「パラオの重要断片的地方誌」（『著作集』第1巻）267・278頁に記されている。
- 152) Ngeltelap ハ＝このギルテラップの由来については、「パラオの重要断片的地方誌」（『著作集』第1巻）268頁に記されている。
- 153) 旧 Kamiangal ニ行ク＝カミヤンガルの文様土器片については、『パラオ文様土器片採集記』（『著作集』第2巻）308～318頁に記されている。
- 154) 道々 Orokan ノ破片ガ大小, 赤手, 黒手, 白手無数ニアル＝カヤンガルの文様土器片については、『パラオ文様土器片採集記』（『著作集』第2巻）308～318頁に記されている。
- 155) Ongal 族ハ＝この伝承は、「パラオの重要断片的地方誌」（『著作集』第1巻）269・270頁に記載されている。
- 156) Tolūk 族ハ＝この伝承は、「パラオの重要断片的地方誌」（『著作集』第1巻）270頁に記載されている。
- 157) Hobohobon 族ハ＝この伝承は、「パラオの重要断片的地方誌」（『著作集』第1巻）270頁に記載されている。
- 158) 新 Kamiangal ヨリ見タル Ngarakaralk ＝この風景は、「伝説より見たるパラオ人」（『著作集』第1巻）62頁に取められている。
- 159) 137 頁図ノ Ngūr-ūdūs ハ＝この伝承は、「パラオの重要断片的地方誌」（『著作集』第1巻）269頁に記載されている。なお、「137 頁図」は、日記の11月18日に取められている。
- 160) Peliriō ノ女 Dililong ハ＝この説話、「モゴル及びプロロブル」（『著作集』第1巻）149頁に記載されている。
- 161) 旧 Kamiangal ハ昔＝この伝承は、「パラオの重要断片的地方誌」（『著作集』第1巻）268頁に記載されている。
- 162) Bittar abelū ノ堺＝この説話は、「パラオの重要断片的地方誌」（『著作集』第1巻）269頁に取

載されている。

- 163) 夜、子供ヲ Twangal ニ出スト=この説話は、ムデヒー・ベラウの一つの話として「ムデヒー・ベラウ」『パラオの神話と伝説』（『著作集』第3巻）23・24頁に収載されている。
- 164) Periliō ノ女、mgiteip ハ=この説話は、「モゴル及びプロセブル」（『著作集』第1巻）149頁に収載されている。
- 165) a Imirik ニ Eratūmaran ト云フ者=類似した話が、「パラオの勇者」（『著作集』第3巻）99・100頁に一部収載されている。
- 166) Klebael 岩山ニ就イテノ伝説=ガツパンに伝わる伝説として、「パラオの重要断片的地方誌」（『著作集』第1巻）271頁に収載されている。
- 167) 昔 Ngatpan ニハ僅カ七人ノ男テ踊ル踊ガアツテ=この踊については、「伝説遺物より見たるパラオ人」（『著作集』第1巻）11・12頁に記されている。
- 168) Ngatpan ノ者ハ昔=ガツパンに伝わる伝説として、「パラオの重要断片的地方誌」（『著作集』第1巻）271・272頁および「伝説遺物より見たるパラオ人」（『著作集』第1巻）11頁に収載されている。

〔第17冊〕

- 169) Ngūrūmrol ノ廢村カラ、Ngardūbch ノ廢村ヲ廻リ=ガツパンの石神石製遺物の調査は、「パラオ石神並に石製遺物報告」（『著作集』第2巻）18～27頁に記されている。
- 170) 各地古名=パラオの古名は、「パラオの重要断片的地方誌」中の「各地古名別名」（『著作集』第1巻）281・282頁に収載されている。
- 171) 途中 a Ikelbelu ニヨツテ図ノ Klitml Bad ヲ見ル=このア・イケル・ベルーの廢村にある石神・石製遺物については、『パラオ石神並に石製遺物報告』（『著作集』第2巻）25～27頁に記されている。
- 172) Almateng ノ者ハ昔=この伝承は、「パラオの重要断片的地方誌」（『著作集』第1巻）273・274頁に収載されている。
- 173) Ulwang ノ古村ハ昔非常ニ勢力ガアツテ=この説話は、「パラオ石神並に石製遺物報告」（『著作集』第2巻）109頁に収載されている。
- 174) Kaiso 岩上ヨリ見タル Būkl =この遺跡については、「伝説遺物より見たるパラオ」（『著作集』第1巻）67・68頁に記されている。
- 175) Mkatakāt ハ Ngeaol ノ Ngarbelaū ニ居タ=この伝承は、カムゼツ部落のイルツ家に関する伝承として、「パラオの重要断片的地方誌」（『著作集』第1巻）272・273頁に収載されている。
- 176) būkl ガアル=ブクルについては、「伝説遺物より見たるパラオ人」（『著作集』第1巻）66～74頁に記されている。
- 177) Aūhl keklao ハ一隊ノモノヲツレテ=この説話は、「ア・ウヘル・ンケクラオの渡来」（『パラオの神話と伝説』、『著作集』第3巻）の別伝として67～69頁に収載されている。
- 178) Ngorchman ノ者ハ=これら3つの伝承は、「パラオの重要断片的地方誌」（『著作集』第1巻）274頁に収載されている。
- 179) Periliō ノ岩山ヨリ=これら2つの伝承は、「パラオの重要断片的地方誌」（『著作集』第1巻）277頁に収載されている。
- 180) Kerdeū (aked) ニ居タルヲ=この伝承は、「パラオの重要断片的地方誌」（『著作集』第1巻）277頁に収載されている。
- 181) Ngabei ハ Mirad ノ子=この伝承は、「パラオの重要断片的地方誌」（『著作集』第1巻）277頁に収載されている。

- 182) 昔 Ngarakabesang ノ勢力ガ=この伝承は、「パラオの重要断片的地方誌」(『著作集』第1巻) 277 頁に収載されている。
- 183) Ngabei ノ者ニ神ガカリガアッテ=この伝承は、ガベイ (ガルコ^oロン) にある大きな角柱石に就いての話として、「パラオ石神並に石製遺物報告」(『著作集』第2巻) 79・80 頁に収載されている。
- 184) Ohüelngkeklaio ノ子 Ohüeltmel 海ニ出テ=この説話は、「天の大綱」と題され、『パラオの神話と伝説』第3巻) 163・164 頁に収載されている。
- 185) Ngartoro ニ娘アリ=この説話は、エラキキモイに就いての異伝として、『パラオの神話と伝説』(『著作集』第3巻) 34・35 頁に収載されている。
- 186) 向ッテ右ノ石=カヤンガル島のガルディーロン村落にある石製遺物については、『パラオ石神並に石製遺物報告』(『著作集』第2巻) 101・102 頁に記されている。
- 187) Ngürsal ノ Tokoromel ノ家テ=この説話は、「山彦魚」の一説として、『パラオの神話と伝説』(『著作集』第3巻) 147～149 頁に収載されている。
- 188) ルク=パラオの男の踊。「パラオの踊」(『著作集』第1巻) 214～216 頁に記されている。
- 189) ルブチー=男の踊。同上 219 頁に記されている。
- 190) クラカラルル=男女の掛合い踊。同上 219 頁に記されている。
- 191) 五日(木) = 5日から13日の記に描かれているカヤンガル島の文様土器片については、「パラオ文様土器片採集記」(『著作集』第2巻) 309～318 頁に記されている。
- 192) 昔 Ngürsübek 家ノ女ガ=この説話は、「パラオの重要断片的地方誌」(『著作集』第1巻) 278 頁に収載されている。
- 193) Rük =ルク。「パラオの踊り」(『著作集』第1巻) 214～216 頁に記されている。
- 194) ngloik =女の踊。この踊については、「パラオの踊り」(『著作集』第1巻) 216・217 頁に記されている。
- 195) Iyahad r Nger ハ木ヲ切ッテ=この説話は、イヤハツ・エル・ゲル(主の神)についての断片的な神話として、『パラオの神話と伝説』(『著作集』第3巻) 7頁に収載されている。
- 196) 昔神々ガ Halap ノ向フノ=同上。
- 197) 三大夫=この伝承は、「パラオの重要断片的地方誌」(『著作集』第1巻) 280・281 頁に収載されている。
- 198) Ngabükd ハ=この伝承は、「パラオの重要断片的地方誌」(『著作集』第1巻) 275 頁に収載されている。
- 199) Horeol ノ Idid 一家ハ=この伝承は、「パラオの重要断片的地方誌」(『著作集』第1巻) 261・262 頁に収載されている。
- 200) 母ト息子、兄ト妹ノ間=この近親禁忌については、「パラオの重要断片的地方誌」(『著作集』第1巻) の「禁忌断片」の一項として283 頁に収載されている。
- 201) 昔 Uliman ハ=この説話は「ティブティブミーユツ」伝説の一説として、『パラオの神話と伝説』(『著作集』第3巻) 29・30 頁に収載されている。
- 202) Ngesan ノ者ハ田圃ノ芋ニ=この虫除呪舞については、「過去に於けるパラオ人の宗教と伝説」(『著作集』第2巻) 221・222 頁に記されている。
- 203) Mekngitl Helid =これらの神々は、『過去に於けるパラオ人の宗教と信仰』(『著作集』第2巻) 159・160 頁に記されている。
- 204) Braboal =戦勝踊とでも言うべきもの。この踊については、「パラオの踊り」(『著作集』第1巻) 218 頁に記されている。
- 205) Ngloik ra Sehah =この踊については、「パラオの踊り」(『著作集』第1巻) 217・218 頁に記

されている。

- 206) Ngatmelニ Ongorel ra hūtam =この説話は「石母子」と題され、『パラオの神話と伝説』（『著作集』第3巻）165・166頁に収載されている。
- 207) Klailwūl =「パラオ島民ノ遊戯」と題され、『パラオの社会と生活』（『著作集』第1巻）204～208頁に記されている。
- 208) Haldbehel ニツイテノ問答ノ断片 =この問答は、パラオ島民の部落組織「ヘルデベヘル（Heldebehel）」と題され、『パラオの社会と生活』（『著作集』第1巻）109～111頁に収載されている。
- 209) 男女ノ間ニ夫婦ノ約束 =この結婚制度については、「パラオ島民の結婚・離婚、『結婚』」と題され、『パラオの社会と生活』（『著作集』第1巻）196・197頁に収載されている。
- 210) Meteetノ女カラ惚レラレタ男 =この特殊強制婚については、「パラオ島民の結婚・離婚、『特殊強制婚』」と題され、『パラオの社会と生活』（『著作集』第1巻）198・199頁に収載されている。
- 211) 黥代 =黥については、「パラオの重要断片的地方誌」（『パラオの社会と生活』（『著作集』第1巻）285～286頁に記されている。
- 212) ガクヲオカラオギワル迄ノ間ノ廢村名 =これら廢村名は、「パラオの重要断片的地方誌」（『著作集』第1巻）275頁に収載されている。
- 213) Ungiwal ニモ Ngesau ノ =ウギワルの芋田除虫祭については、「過去に於けるパラオ人の宗教と信仰」（『著作集』第2巻）222頁に記されている。
- 214) Ngarhelūūch ノ bai =このア・ラブク神人についての説話は、「パラオ石神並に石製遺物報告」（『著作集』第2巻）108頁に収載されている。
- 215) a Imeyons l bad =この石については、「パラオ石神並に石製遺物報告」（『著作集』第2巻）107頁に記されている。
- 216) Ngkesar ハ昔 =この伝承は、「パラオの重要断片的地方誌」（『著作集』第1巻）257頁に収載されている。
- 217) Ngalmūlūngūi ノ pkūl a dion =この伝承は、「パラオの重要断片的地方誌」（『著作集』第1巻）258頁に収載されている。
- 218) Ngkeisar ノモノハ =この伝承は、「パラオの重要断片的地方誌」（『著作集』第1巻）258頁に収載されている。
- 219) Ngarkliyangd ニ Ohūel kliyand ト云フ者ガ =この説話は、「養老の水」と題され、『パラオの神話と伝説』（『著作集』第3巻）183～185頁および「南洋随想」（『著作集』第6巻）450・451頁に収載されている。
- 220) 此ノ村ハ Ngira Ngarāūs =この伝承は、「パラオの重要断片的地方誌」（『著作集』第1巻）258頁に収載されている。
- 221) 此ノ村ハ Ohūel a Helid =この伝承は、「パラオの重要断片的地方誌」（『著作集』第1巻）258・259頁に収載されている。
- 222) Hoigūll ハ =この伝承は、「パラオの重要断片的地方誌」（『著作集』第1巻）256・257頁に収載されている。
- 223) Ngūrsar ノコトラ =この伝承は、「パラオの重要断片的地方誌」（『著作集』第1巻）257頁に収載されている。
- 224) Ngarangasang ノ者ハ =この伝承は、「パラオの重要断片的地方誌」（『著作集』第1巻）259頁に収載されている。
- 225) 結社表象 =巡査から没収されたこの2点については、「パラオに於ける信仰的新結社に就いて」

- (『著作集』第2巻) 253・254頁に記されている。
- 226) ウルボサンニ出カケル＝ウルボサンの石製遺物については、『パラオ石神並に石製遺物報告』(『著作集』第2巻) 114～116頁に記されている。
- 227) Ngerwikl ノ bai l Ngürütmoü ノ前ニ＝この石の伝承については、『パラオ石神並に石製遺物報告』(『著作集』第2巻) 116頁に収載されている。
- 228) Ngarauš ノ Ibellū ノ家ニ＝この説話は、『海蛇の父』と題され、『パラオの神話と伝説』(『著作集』第3巻) 150・151頁に収載されている。
- 229) Ngarakasou カライヤナ登道ヲ＝この説話は、『ガラガサンの大墓』と題され、『パラオの神話と伝説』(『著作集』第3巻) 126頁に収載されている。
- 230) 昔 Ngelbeküdüs ト云ハレ、Edaol デアッタ＝この遺跡については、『パラオ文様土器片探集記』(『著作集』第2巻) 318・319頁に記されている。
- 231) Periliō ノ Ngardloloeh ＝この説話は、『パラオの重要断片的な地方誌』(『著作集』第1巻) 260頁に収載されている。
- 232) Kūap ガ此ノ村ヲ＝この伝承は、『パラオの重要断片的な地方誌』(『著作集』第1巻) 260頁に収載されている。
- 233) Ngarakasou, Ngarangasang ノゾツト裏＝この説話は、『ゲミングルの最後』と題され、『パラオの神話と伝説』(『著作集』第3巻) 129・130頁に収載されている。
- 234) 昔 Ngaswas 及 Ngarkabokl ハ非常ニ＝この説話は『パラオの重要断片的な地方誌』(『著作集』第1巻) 261頁および『パラオ島民の部落組織』(『著作集』第1巻) 150頁に収載されている。
- 235) 裏ノ aked — Mkekisoūs ＝この遺跡については、『伝説遺物より見たるパラオ人』(『著作集』第1巻) 70～73頁に記されている。

〔第18冊〕

- 236) カスーデ a Irai ニ渡シテ貫フ＝a Irai にある石製遺物については、『パラオ石神並に石製遺物報告』(『著作集』第2巻) 120～124頁に記されている。
- 237) a Irai ノ Telbādal 家ノ＝この説話は、『パラオの重要断片的な地方誌』(『著作集』第1巻) 255・256頁に収載されている。
- 238) a Irai ヲ発チ、歩イテ Ngürsar ニ入ル＝グルサル村落の石製遺物については、『パラオ石神並に石製遺物報告』(『著作集』第2巻) 121～123頁に記されている。
- 239) 昼前 Ngürlüobl ニ入り石ヲ見＝グルルオーブル村落の石製遺物については、『パラオ石神並に石製遺物報告』(『著作集』第2巻) 123・124頁に記されている。
- 240) 直チニ Ngatkip ニ入り＝ンカッキップ村落の石製遺物については、『パラオ石神並に石製遺物報告』(『著作集』第2巻) 123～125頁に記されている。
- 241) Ngatkip ノ隣ニ＝この説話は、『パラオの重要断片的な地方誌』(『著作集』第1巻) 256頁に記されている。
- 242) 昔 a Ilbūng (現在ノ Ngarmongolong) ニ＝この説話は、『女竹(リルツ)の子』と題され、『パラオの戦話と伝説』(『著作集』第3巻) 122・123頁に収載されている。
- 243) Pkūl a belū ニ行ク＝ベリリユー島のア・プクル・ア・ペルーにある石製遺物については、『パラオ石神並に石製遺物報告』(『著作集』第2巻) 128・129頁に記されている。
- 244) カ[△]ルドロロコ[○]ニ行キ＝ガルツプロログノ石製遺物については、『パラオ石神並に石製遺物報告』(『著作集』第2巻) 127・128頁に記されている。
- 245) Ngarohol ＝ベリリユーのガロゴルにある石製遺物については、『パラオ石神並に石製遺物報告』(『著作集』第2巻) 125～128頁に記されている。

- 246) Ngarakalelb = この伝承は、「パラオの重要断片的地方誌」(『著作集』第1巻) 252 頁に記載されている。
- 247) perdebūd 及び座席位置 = モデクゲイの饗宴。この饗宴については、「パラオに於ける信仰的新結社に就いて」(『著作集』第2巻) 254 ~ 256 頁に記されている。
- 248) Nanba Wang ノ家 (Ngirkngir) = ベリリユー島のガルケコックルにある石製遺物については、「パラオ石神並に石製遺物報告」(『著作集』第2巻) 129・130 頁に記されている。
- 249) Ngal belaū ノ者ハ = 以下三つの伝承は、「パラオの重要断片的地方誌」(『著作集』第1巻) 253 頁に記載されている。
- 250) Ngederoch ニモト = 以下三つの伝承は、「パラオの重要断片的地方誌」(『著作集』第1巻) 253・254 頁に記載されている。
- 251) Kidek ト称スル除虫祭 = この除虫祭については、「過去に於けるパラオ人の宗教と信仰」(『著作集』第2巻) 223 頁に記されている。
- 252) Ngerimodl = 以下26の雲占等に関する短文は、「パラオの重要断片的地方誌」の中の〔雲占, 其他〕(『著作集』第1巻) 287 ~ 290 頁に記載されている。
- 253) 夜, バイデ馳走ヲ出シタ = ガロコル部落のア・バイでなされたモデクゲイの饗宴。久功がモデクゲイの頭主コーデップを連れて行ったので、その歓迎の意味でなされたもの。殆ど空前絶後のモデクゲイの饗宴であった。(「過去に於けるパラオ人の宗教と信仰」(『著作集』第2巻) 255・256 頁。
- 254) Ngabeangd = この伝承は、「パラオの重要断片的地方誌」(『著作集』第1巻) 254 頁に記載されている。
- 255) Ngel 家 = この伝承は、同上、254・255 頁に記載されている。
- 256) 星 = 「パラオ島民の暦」(『著作集』第1巻) 234 頁に星の名前が列挙されているが、表記は異なる。
- 257) a Ulong = コロールとベリリユー島の間にある岩山。ア・ウロンの岸壁画については、「伝説遺物より見たるパラオ人」(『著作集』第1巻) 86・87 頁に記されている。
- 258) 長明丸ニ乗込ム = パラオ出航からサタワル島滞在中の日記の主要部分の前半は、加筆訂正され、「流水 I」(『著作集』第7巻) に収められている。
- 259) Soūk = ソウク島。シコク島とも。チューク諸島の北西離島の一つで、エンダビー諸島の南にある島。